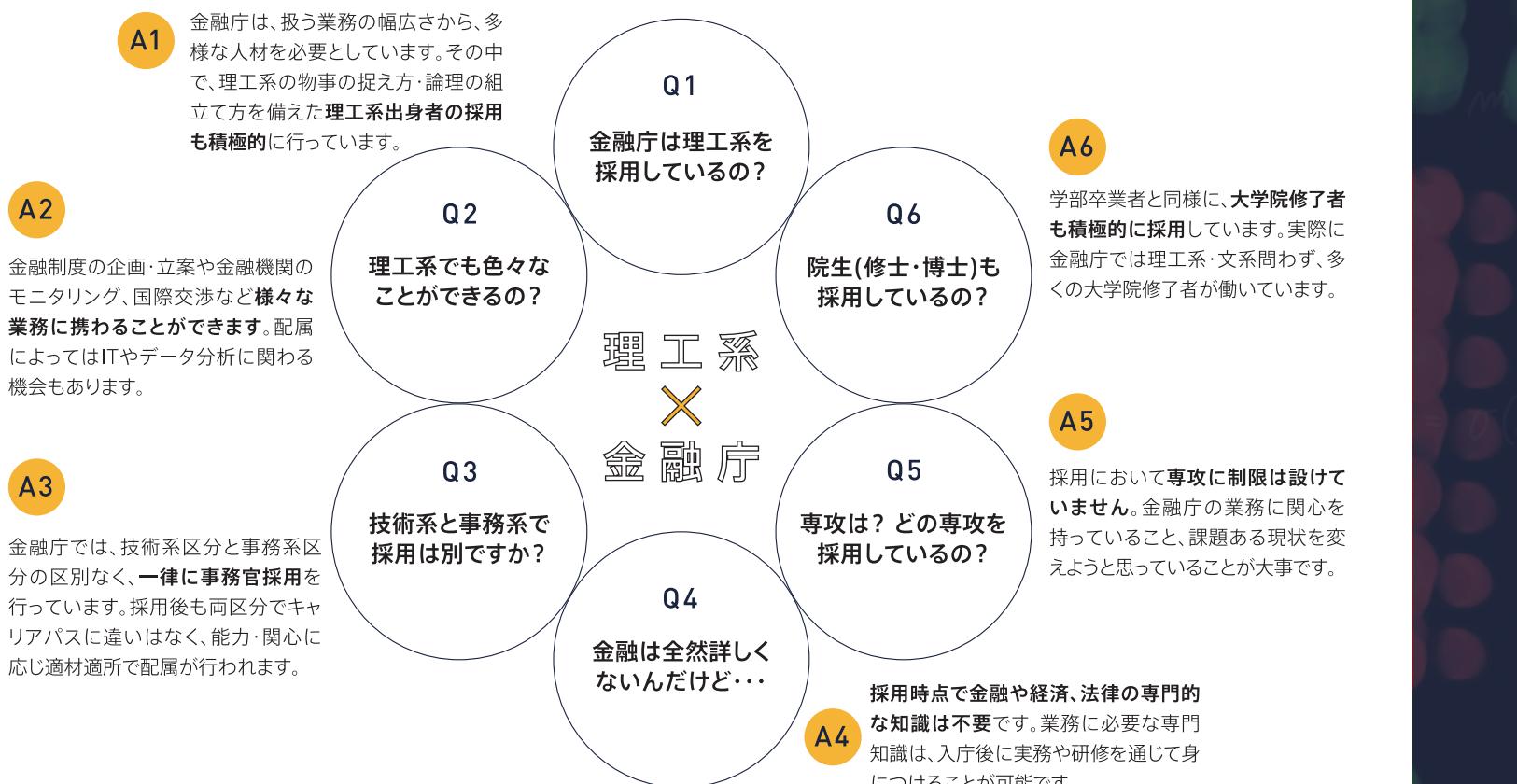


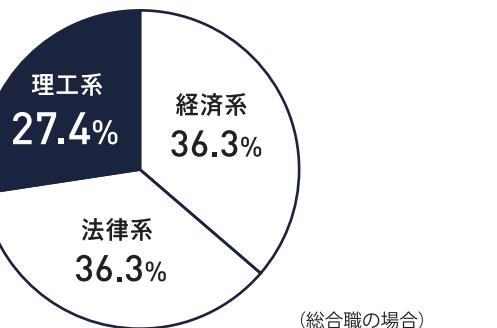
## よくある質問 [理工系学生編]



## Recruitment Information

## データで見る金融庁の採用

## ■ 2015年度新規採用者の出身学部(専攻)



## ■ 理工系学科の採用例

応用化学	システム創成学	都市工学
化学	社会工学	物理学
管理工学	数学	物理工学
航空宇宙工学	生物科学	薬学

## ■ 採用実績

( )内は女性(内数)

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
総合職	17(7)	12(6)	16(8)	11(5)
一般職	24(11)	6(3)	26(7)	25(12)

## ■ 金融庁職員の海外勤務状況



FINANCIAL  
SERVICES  
AGENCY



理工系学生のための採用案内

理工系  
X  
金融庁

# 金融庁のミッション

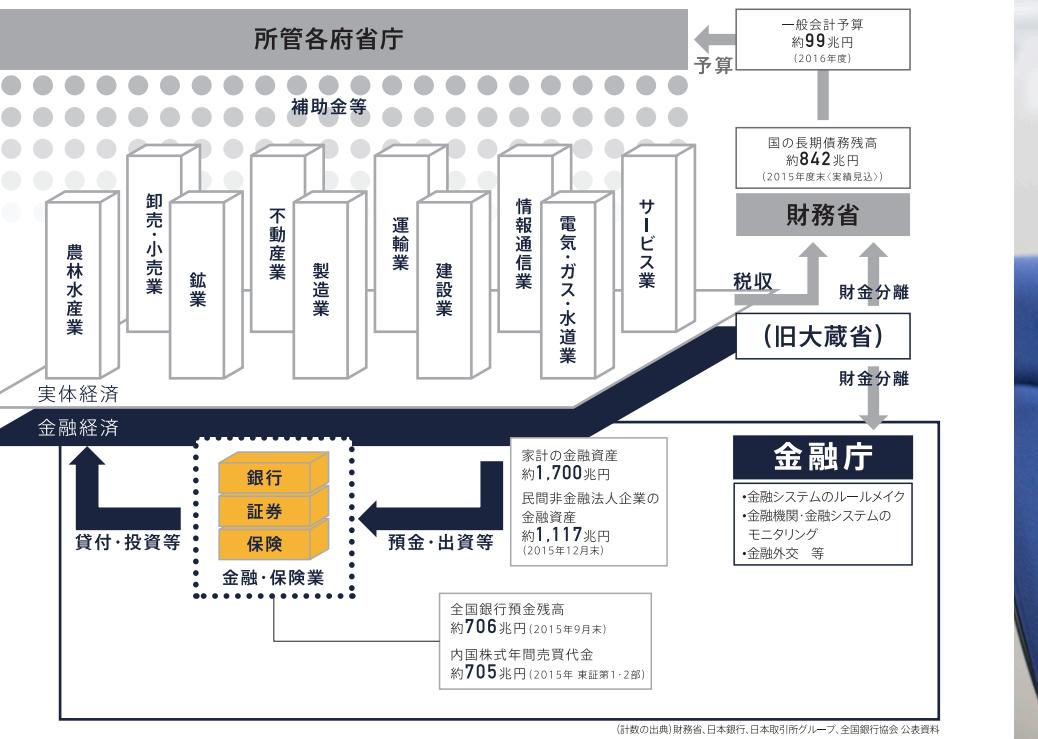
## 金融を通じて経済を支える

経済ということばを聞いて、みなさんがまずイメージするのは、電機メーカーによる液晶テレビの生産、不動産デベロッパーによる都市開発など、いわゆる「実体経済」における活動ではないでしょうか。

金融行政は、「実体経済」を構成するあらゆる経済主体の活動を支えるもう1つの経済、「金融経済」を主な対象としています。

金融は、成長分野として日本経済を牽引する1つの「産業」としての側面に加え、経済・社会を支える「インフラ」としての側面があります—地域を支える中小企業の事業運転資金や海外進出を狙う企業の海外での設備投資資金の供給。個人事業主が事業を行う際に生じるリスクをカバーするための保険—各経済主体の活動は、このような金融があつてこそ、最大のパフォーマンスを発揮することができるのです。

金融庁は、金融システムのルールメイクや、金融機関・金融システムのモニタリング、更に金融外交までをも政策ツールとして用いながら、金融のポテンシャルを最大限に引き出すことをミッションとしています。



## Message

01

[留学生編]



## 金融という軸をもって

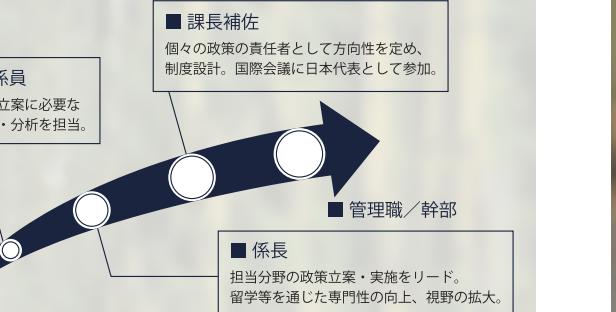
### —これまでの経験

私は入庁後の4年間で、係員としてグローバル化する金融機関の監督を担当した後、係長として金融規制の国際交渉に携わりました。監督と国際交渉という一見性質の異なる仕事ですが、金融機関とのコミュニケーションを通じて学んだことが、国際交渉での日本の戦略を立案する際の素地となるなど、「金融を軸に自分の経験が結びつく」という金融庁の魅力を実感しました。

### —海外留学での経験

海外留学中の現在は、行政政策の効果を分析・評価する手法を学んでいます。対象は金融から外交、社会保障まで幅広く、理工系出身の自分が得意なテーマもあれば、全くなじみのないテーマもあり、知識・視野が広がっていくを感じます。学友の多くは各国の政府職員であり、彼らとの議論を通じて、今後世界の中で日本が、金融庁が、何をすべきか客観的に考える機会も増えました。こうした経験を、帰国後に新たな業務に取り組む際に活かしたいと思います。

### ■職員のキャリアパスのイメージ



西村霞美  
シンガポール国立大学  
(海外留学中)  
2012年入庁  
〔学生時代の専攻  
管理工学〕

## Message

03

[中堅職員編]



## 広がる視野、深まる専門性

### —金融庁に入った理由

私は修士課程で、数学の中でも純粋数学とはやや毛色の異なる「保険」を専攻しました。そこでは保険数理だけではなく、会計や制度面も併せた複合的な観点からの研究を行いましたが、その過程で日本の保険には様々な課題があることに気付き、その解決のために働くことのできる場として、金融庁を選びました。

### —国内大学院留学(博士課程)での経験

入庁後、留学制度を使って国内大学院の博士課程に留学しました。ここでは、個々の保険契約者の財産的な持分のあり方や、その確立のためにどのような制度が必要かなどについて数理的な側面から研究を行いました。学生時代の専攻にて漠然と考えていたことが、金融庁で一步視野を広げて業務に取り組むうちにより明確になり、その問題意識を博士課程で突き詰めるという、行政官ならではの貴重な経験を積むことができました。

### ■金融庁職員の留学派遣実績

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
海外留学	6	8	12	12
国内留学	4	6	2	4

我妻佳祐  
総務企画局企業開示課  
開示業務室課長補佐  
2006年入庁  
〔学生時代の専攻  
数学・数理解析〕



## 広いフィールドに憧れて

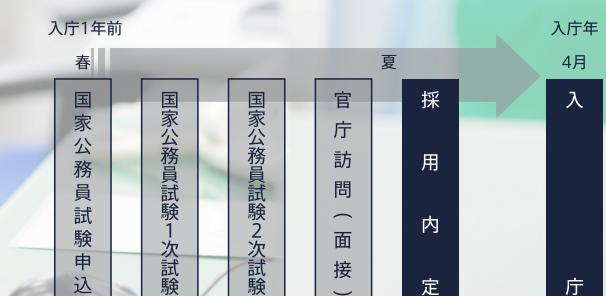
### —大学時代の研究内容

金融行政とは無縁でした(笑)大学では、ウニの遺伝子について研究をしました。ウニとヒトの遺伝子は相同性が高く、ウニの遺伝子解析はヒトの病気や進化の過程の解明に活用できる可能性があるとされています。私は主にReelinという、ヒトの滑膜症やアルツハイマー病に関わる遺伝子の機能について研究していました。

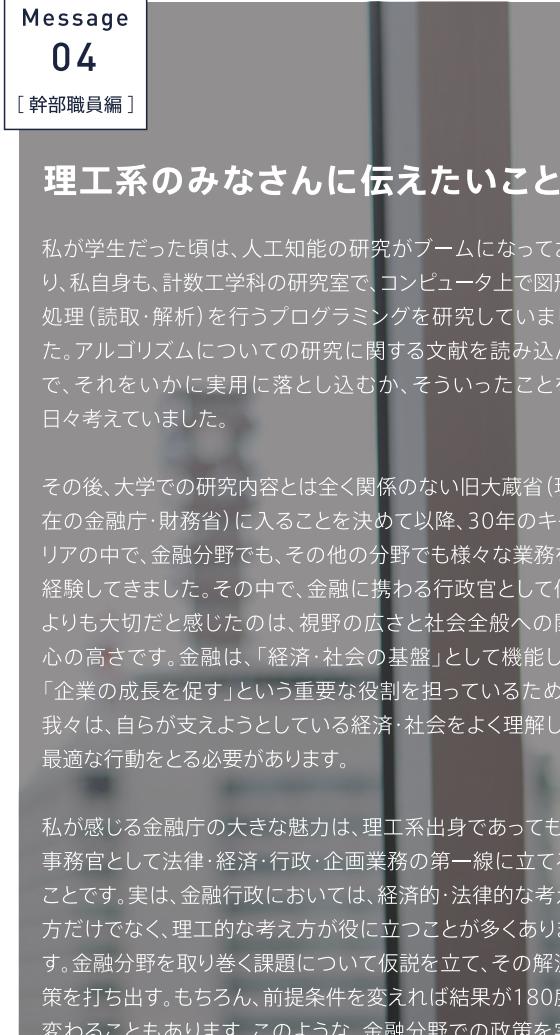
### —金融庁に入った理由

就職活動を通じて、経済活動を支える金融に关心を持ちました。官庁訪問の時点で金融の専門知識はありませんでしたが、経済・社会という広いフィールドにおいて、理工系・文系問わず多様なバックグラウンドを持った職員が一体となって政策を作りあげている所に魅力を感じ、金融庁に入ることにしました。

### ■採用プロセス



※ 研究室推薦等に基づく採用は行っていません  
※ 国家公務員試験に関する最新情報は人事院のウェブサイトをご覧下さい



## Message

04

[幹部職員編]

## 理工系のみなさんに伝えたいこと

私が学生だった頃は、人工知能の研究がブームになっており、私自身も、計数工学科の研究室で、コンピュータ上で图形処理(読み取・解析)を行うプログラミングを研究していました。アルゴリズムについての研究に関する文献を読み込んで、それをいかに実用に落とし込むか、そういうことを日々考えていました。

その後、大学での研究内容とは全く関係のない旧大蔵省(現在の金融庁・財務省)に入るごとを決めて以降、30年のキャリアの中で、金融分野でも、その他の分野でも様々な業務を経験してきました。そこで、金融に携わる行政官として何よりも大切だと感じたのは、視野の広さと社会全般への関心の高さです。金融は、「経済・社会の基盤」として機能し、「企業の成長を促す」という重要な役割を担っているため、我々は、自らが支えようとしている経済・社会をよく理解し、最適な行動をとる必要があります。

私が感じる金融庁の大きな魅力は、理工系出身であっても、事務官として法律・経済・行政・企画業務の一線に立てるごとです。実は、金融行政においては、経済的・法律的な考え方だけでなく、理工的な考え方方が役に立つことがあります。金融分野を取り巻く課題について仮説を立て、その解決策を打ち出す。もちろん、前提条件を変えれば結果が180度変わることもあります。このような、金融分野での政策を実施する際の考え方、私が学生時代に毎日研究室で回していた思考回路と通じるものがあります。

金融庁においては、様々なバックグラウンドを持った人が集まり、議論を交わすことを重視しています。理工系の考え方を持ち、議論をより多角的なものにすることができるのは、理工系のみなさんの「強み」になります。

金融庁で「事務官」として活躍する。そんな生き方を選んでみるのはいかがでしょうか。



中島淳一

総務企画局参事官  
1985年大蔵省入省  
〔学生時代の専攻  
計数工学〕